

### 1-3 北海道太平洋沿岸の地震活動

#### Seismicity along the southern part of the Kuril trench

北海道大学理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

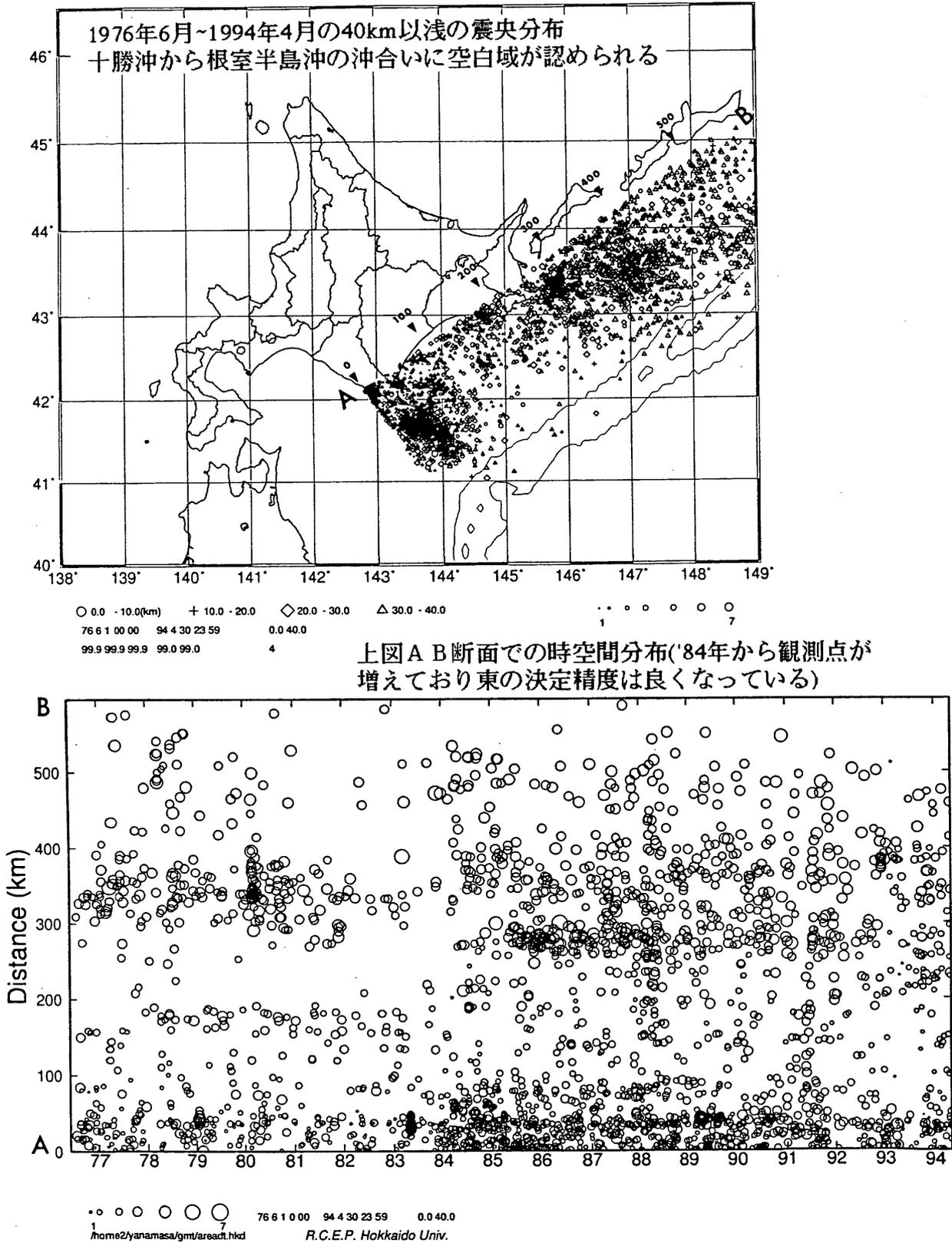
これまで十勝沖からエトロフ島付近までの千島海溝南端部に沿う地震活動を微小地震のレベルで監視してきた<sup>1)</sup>。第1図に見られる十勝沖から根室半島沖合いの地震活動空白域が気になるので、気象庁の長期間にわたる、より大きな地震の資料ではどうなっているかを、過去の大地震の震源域と関連させながら検討した。

1950年以降のM5以上の地震による結果が第2図である。宇津<sup>2)</sup>に従って領域をA-Fに分割してある。1973年根室半島沖地震により海溝沿いのM8クラスの地震シリーズは完結したものと考えられるが、相対的にB, C領域の地震活動が著しく低く、第1図と同様にB, Cの海溝軸付近が空白になっている。また、1990年からE領域で地震が発生していない。1990年以降のM3以上の地震による結果ではこれらの空白域がさらにはっきりしている(第3図)。

これらの空白域が今後どうなってゆくのか注意深い監視が必要である。

#### 参 考 文 献

- 1) 北大理学部：北海道とその周辺の最近の地震活動(1990年12月～1991年5月)，連絡会報，46(1991)，1-8。
- 2) 宇津徳治：地震学，1977，共立全書，157頁。



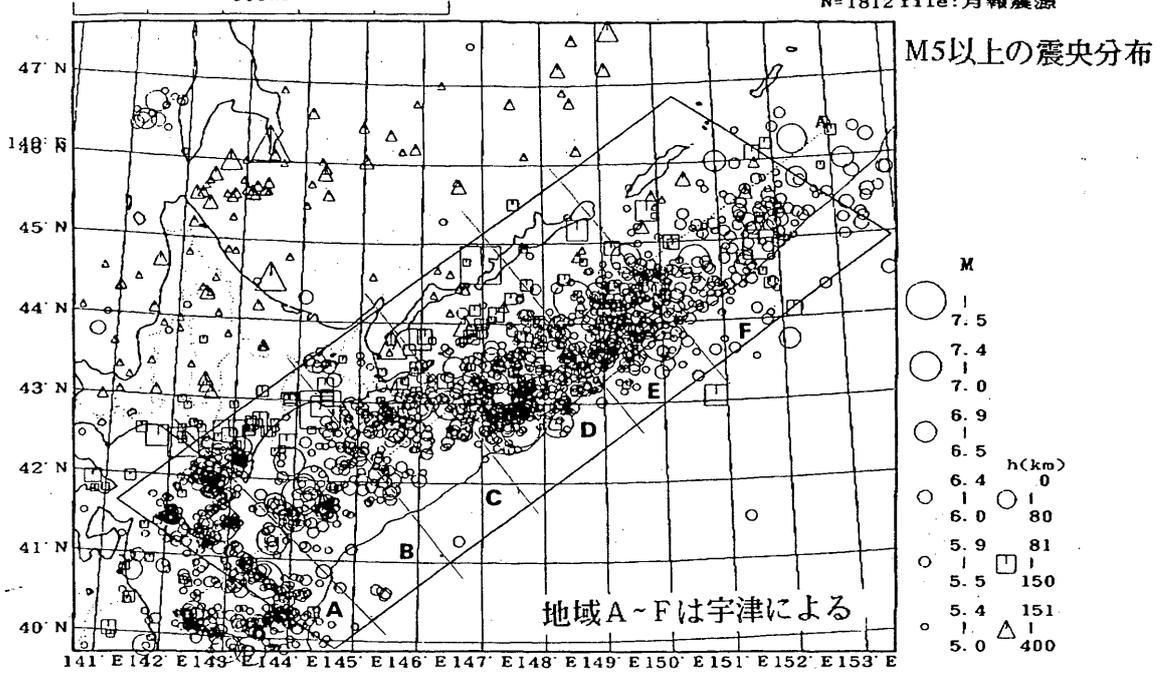
第1図 千島海溝沿いの微小地震活動

Fig.1 Microearthquakes along the southern part of the Kuril trench.  
 Epicenter distribution and space-time plot.

1950-1993

1950 01 01 00:00 -- 1993 12 31 24:00

N=1812 file:月報震源

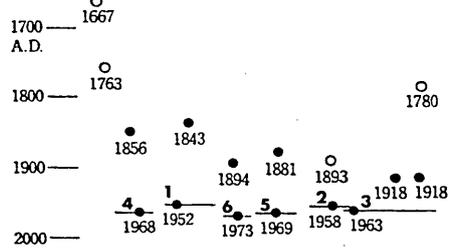
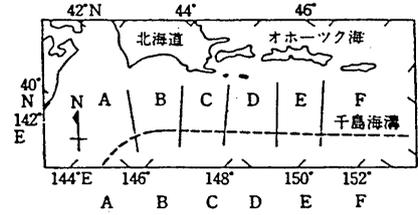
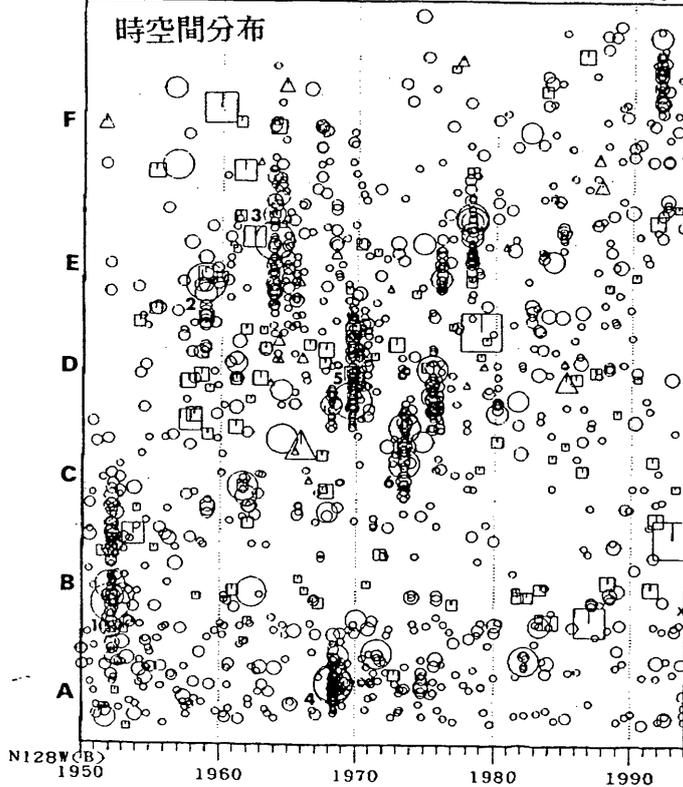


1950 01 01 00:00 -- 1993 12 31 24:00

by JMA M>5

N52E(A)

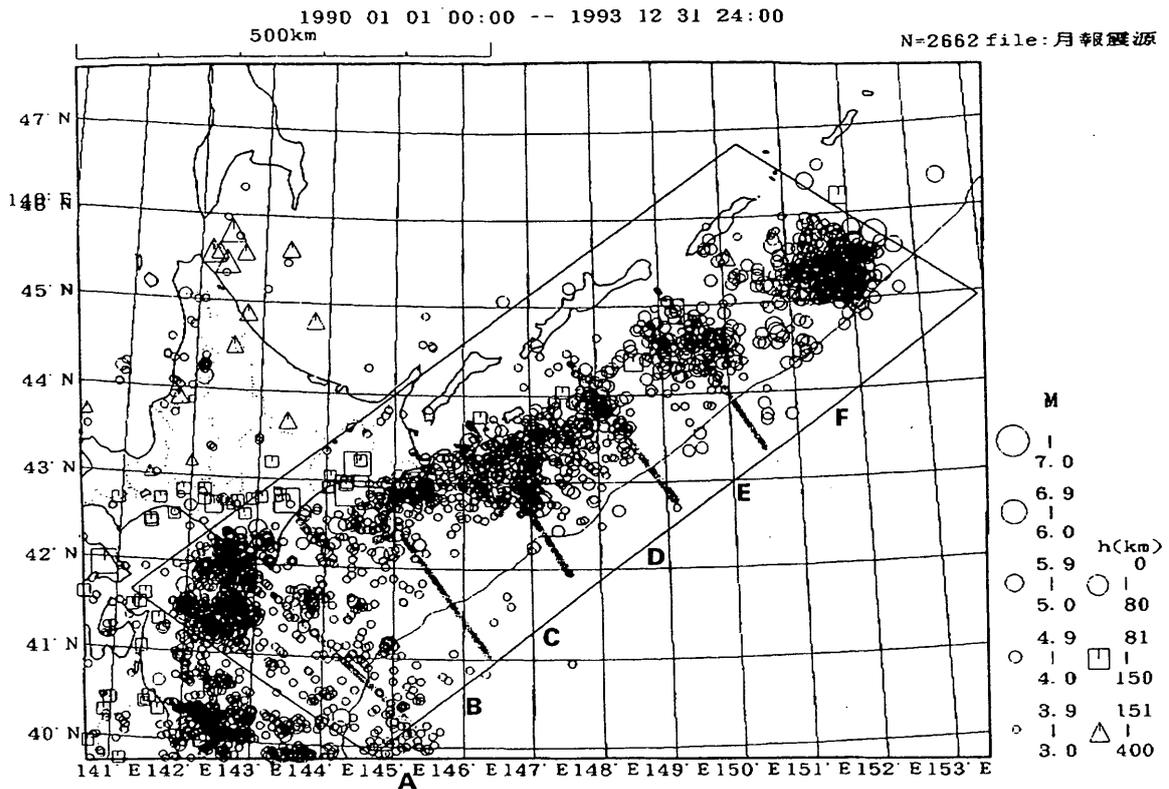
N=1468



by UTSU

第2図 気象庁資料による1950年以降の千島海溝沿いのM>5の地震活動

Fig.2 Earthquakes with M>5 along the southern part of the Kuril trench.



第3図 気象庁資料による1990年以降の千島海溝沿いのM>3の地震活動  
 Fig.3 Earthquakes with M>3 along the southern part of the Kuril trench.